

# つくば市における視認困難な道路標識の分布

吉原 遼 (地誌学分野)

## 1. 目的

本調査では視認が困難な標識の分布を調べ、その分布傾向と周辺の土地利用との関連性を分析する。調査対象はつくば市を通る国道及び県道、さらにそれらの道路を結ぶ道路に設置されている道路標識とした。

## 2. 手法

対象となる道路で視認が困難な道路標識を見つけ、位置を GPS 端末で地点をプロットした。そして、その結果を GIS で分析した。なお、視認困難な標識は、基準は以下の通りに定めた。①街路樹の陰に隠れているもの ②他の標識や電柱に隠れているもの ③標識の向きがずれているもの ④壊れている、汚れているもの ⑤見通しの悪い道にあるもの

## 3. 結果

視認困難な標識の数は 100 か所あった (図 1)。視認困難な原因は①が 70 か所、②が 7 か所、③が 10 か所、④が 3 か所、⑤が 6 か所、その他の原因が 4 か所であった (図 2)。

視認困難な標識の多くは街路樹によって見にくくなっていた。そのため、街路樹の多い

国道 408 号線には多くの視認困難な標識が分布していた。しかし、同様に街路樹のある東大通り、西大通りにはそれほど多くなかった。この原因は街路樹の種類にあると考えられる。標識の向きがずれているものや壊れているものは、比較的路肩が狭い道の多く分布していた。他の標識や柱に隠れているものや見通しの悪い道にあるものは明らかに設置上のミスであり、これらの分布に偏りは見られなかった。

## 4. 考察

視認困難な標識の多くは街路樹が道路の上まで葉や枝を茂らせていることが原因となっている。そのため、樹冠が広がる街路樹のある国道 408 号線沿いにおいて視認困難な標識が多くみられた。また、道幅が狭い道路や住宅地を通る道路周辺には民家や樹木などの障害物が多いことなどから、視認困難な標識が多く分布していた。

これらから、標識の視認度は周囲の環境と関連があると言えよう。

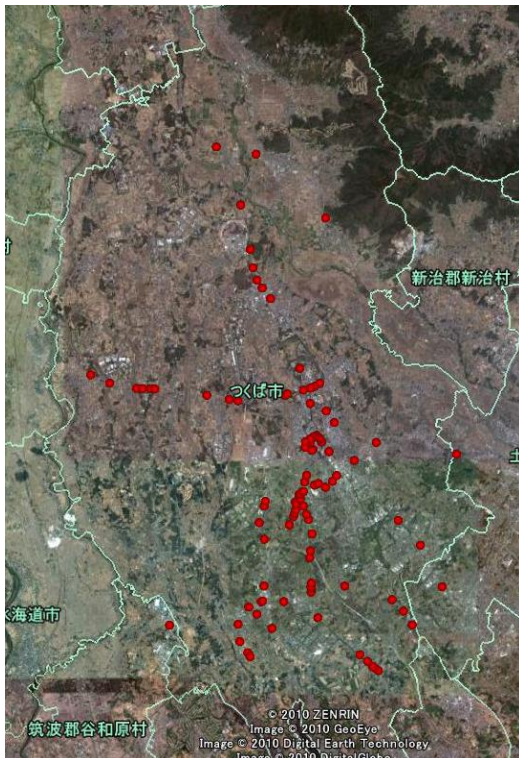


図 1 視認困難な標識の分布

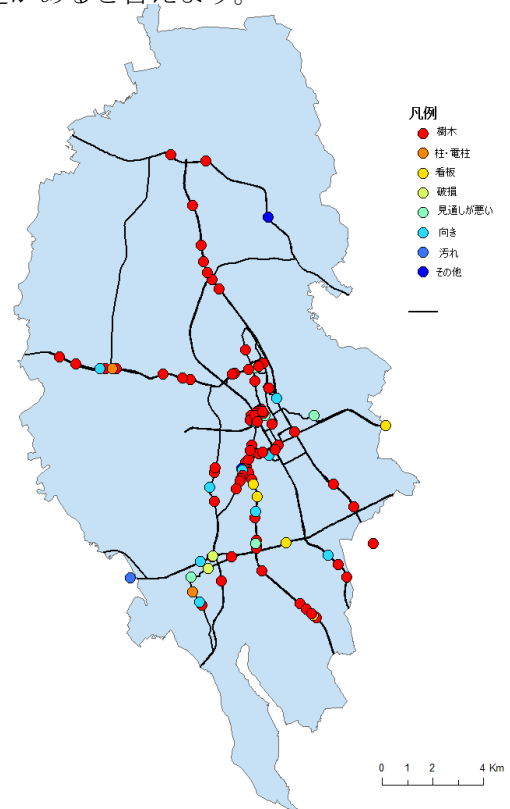


図 2 視認困難な標識の分布とその要因